

# 令和4年度 「世界青年の船」事業(ハイブリッド)



### 略語一覧

※本文の中で略語が使用されている場合がありますので、御参照ください。

「世界青年の船」事業	Ship for World Youth Program	SWY
参加青年	Participating Youth	PY
日本参加青年	Japanese Participating Youth	JPY
外国参加青年	Overseas Participating Youth	OPY
既参加青年	Ex-Participating Youth	Ex-PY
事務局	Administration	ADM
ナショナル・リーダー	National Leader	NL
サブ・ナショナル・リーダー	Sub-National Leader	SNL
ユース・リーダー	Youth Leader	YL
グループ・リーダー	Group Leader	GL
コース・ディスカッション	Course Discussion	CD
ピア・ラーニング・セミナー	Peer-Learning Seminar	PLセミナー
ナショナル・プレゼンテーション	National Presentation	NP
自主活動	Voluntary Activity	VA
「世界青年の船」事業事後活動組織	Ship for World Youth Alumni Association	SWYAA
日本青年国際交流機構	International Youth Exchange Organization of Japan	IYEO

## 序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

その中でも、「世界青年の船」事業は、明治100年記念事業の一つとして昭和42年度(1967年度)に開始された「青年の船」事業に由来するもので、日本を含む11か国から多様なバックグラウンドを持つ参加青年たちが、ディスカッションや文化交流、ワークショップ等を通じて、国際的視野を広げ、国際化が進展する社会の各分野でリーダーシップを発揮することができるよう育成することを目的としています。

コロナ禍の影響により、船上で共同生活を送りながらディスカッションやセミナー等の研修を行うという従来の形での開催は困難となりましたが、令和2年度、3年度は、オンライン方式により事業を実施してまいりました。今年度は、ウィズコロナの交流の在り方を模索した結果、約1か月間のオンライン交流と約2週間の対面交流を組み合わせたハイブリッド型の交流という新たな形態で事業を実施することとしました。

具体的には、日本参加青年による事前研修のほか、SDGsを共通テーマに8つの分野に分かれて行うコース・ディスカッション、自国の基礎情報や文化を発表するナショナル・プレゼンテーション、社会貢献に繋がる取組や異文化理解を促進させる学術的な内容を参加青年同士で学び合うワークショップやセミナーなどのプログラムを実施しました。

最終日に開催した成果発表会では、参加青年自身による企画・運営がなされ、各コース・ディスカッションで学んだ内容や事業で得た体験等について熱く語られるなど、本プログラムを通じた参加青年の大きな学びや成長を感じ取ることができました。なお、本発表会の模様はインターネットでも配信され、参加青年の家族、参加各国の政府、事後活動組織、そして在外公館などの関係先にも視聴していただきました。青年たちの成長した姿から本事業の目的であるリーダーシップを発揮して、社会貢献を行うことができる青年育成の一端を垣間見ていただけたものと思います。

今回参加した青年一人ひとりが、地域、世界のいずれの舞台においても、今後の活動においてリーダーシップをいかに発揮されることを願ってやみません。

内閣府としても、今回のハイブリッド形式による交流事業の経験や実績を踏まえて、今後の「世界青年の船」事業の更なる充実につなげていきたいと思っております。

本報告書は、今回の事業で行った様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の成果を御理解いただくとともに、今後の一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府及び事後活動組織、外務省本省並びに在外公館をはじめとする関係各位の皆さまに、心から御礼申し上げます。

令和5年3月

内閣府青年国際交流担当室長

黒瀬 敏文

内閣府青年国際交流事業報告書2022  
令和4年度  
「世界青年の船」事業(ハイブリッド)

目次

略語一覧	2
序	3
カラーグラビア	5
<b>第1章 事業の概要</b>	
1. 目的	22
2. デリゲーション(参加国代表団)	22
3. 組織	22
4. 事業の準備日程	23
5. 事業日程	24
<b>第2章 事業の実施</b>	
1. 内閣総理大臣メッセージ	32
2. コース・ディスカッション(CD)	32
3. オンライン交流及び仮想空間における交流	33
4. ピア・ラーニング・セミナー(PLセミナー)	34
5. ナショナル・プレゼンテーション(NP)	36
6. 自主活動(VA)	37
7. サマリー・フォーラム	39
<b>第3章 コース・ディスカッション・レポート</b>	
1. CD-1あらゆる人々の活躍の推進	42
2. CD-2ジェンダー平等、女性活躍の推進	45
3. CD-3健康・長寿の達成	47
4. CD-4成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション	50
5. CD-5持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備	52
6. CD-6省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会	55
7. CD-7生物多様性、森林、海洋等の環境の保全	58
8. CD-8平和と安全・安心社会の実現	61
<b>第4章 事業に対する評価</b>	
1. 各国ナショナル・リーダー評価	66
2. 参加青年による事業評価	80
<b>関係資料</b>	
1. 参加青年の構成	88
2. 参加者一覧	89
3. 事後活動	103
4. 既参加青年による事後活動組織設立への動きとその歴史	103
5. SWYAA国際連盟について	105
6. 事業実績	107